

東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2012

防衛省防衛研究所

The National Institute for Defense Studies, Japan

はしがき

東アジアの平和と安定を確保するためには、同地域の安全保障環境を客観的かつ包括的に理解する必要がある。本書は、このような観点から、防衛研究所の研究者がこれを分析・検討した成果を広く内外に提供するものである。

本書は、東アジアの国・地域ごとに2011年1月から12月までの1年間に生じた安全保障にかかわる重要な事象について分析・検討している。また東アジアのみならずグローバルな安全保障を考える上で重要と思われる問題についてもトピック章、あるいは解説コラムを設けて分析している。

今回は、トピック章として設けた第1章で、中東諸国で進行するいわゆる「アラブの春」と呼ばれる政治変動の状況と民主化の行方、東アジアへの影響などについて中・長期的視点から分析した。また、国・地域ごとに、第2章以下では、ポスト金正日の北朝鮮において進む体制継承と韓国の安全保障政策の再編、中国における18全大会へ向けた環境整備、南シナ海問題をはじめとする東南アジア諸国をめぐる安全保障問題、新政権発足に向けたロシアと日本周辺で活発化するロシア軍の動き、財政危機と対外コミットメントのはざまで難しいかじ取りを迫られる米国の安全保障政策、日本にとっての東日本大震災の教訓、さらに震災を経て本格化する動的防衛力構築に向けたさまざまな取り組みなどを分析している。本書が、日本を取り巻く安全保障環境を理解する一助となり、日本や地域の国々が直面する安全保障上の課題をめぐる議論を喚起する契機となれば幸甚である。

本書の執筆は、秋本茂樹、阿久津博康、新垣拓、飯田将史、一政祐行、菊地茂雄、齋藤篤史、坂口賀朗、庄司智孝、杉浦康之、高橋杉雄、西野正巳、橋本靖明、兵頭慎治、増田雅之、室岡鉄夫が担当した。また編集作業は、石原雄介、一政祐行、大西健、佐竹知彦、高松実、松浦吉秀、松宮康一郎が担当した。

なお、本書は、防衛研究所の研究者が独自の立場から分析・記述したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。

平成24年（2012年）3月

防衛研究所 地域研究部長

『東アジア戦略概観2012』編集長

片原栄一